

教科		理科		科目	生物基礎	単位数	4
学年	1	科	普通		専攻・コース	大学進学	
教科書		高等学校生物基礎(第一学習社)			副教材	セミナー生物基礎(第一学習者)	
学習到達目標		日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身に付けるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方ができるようになる。					
評価の観点		①生物・生物現象に関心を持っているか。 ②授業に積極的に取り組んでいるか。 ③学習内容に関する知識・技能が身についているか。					
期	月	学習内容・項目		学習のポイントと到達目標		備考	
前 期	前期第1回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> 生物の共通性と多様性 細胞の構造 細胞の代謝 		<ul style="list-style-type: none"> 現存する多様な生物には共通性があり、その共通性は共通の起源をもつことに由来することを理解できる。 細胞内の基本的な構造に関して、体の働きと関連付けて理解することができる。 細胞内でエネルギーとなる有機物がどのように合成されているのかを、細胞内の構造と関連づけて理解することができる。 			
	前期第2回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> 酵素 生体内のエネルギー物質 共生説 		<ul style="list-style-type: none"> 生体内の化学反応が酵素によって促進されていることを酵素の働きかたの特徴とともに理解することができる。 生物のエネルギー源となる物質であるATPが生命活動に広く利用されていることを理解することができる。 ミトコンドリアと葉緑体が原核生物に由来することと、その根拠について理解することができる。 			
	前期末試験	<ul style="list-style-type: none"> DNA 遺伝に関する研究史 		<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子の本体であるDNAが持つ特徴に関して理解することができる。 DNAがどのように生物の遺伝情報を保存しているのかをDNAの構造と関連付けて理解することができる。 遺伝情報を伝達する物質がどのよう 			

期	月	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	備考
後 期	後期第1回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> ゲノム 体液の組成 血液の働き 	<ul style="list-style-type: none"> 生物のゲノムに関して、既習事項であるDNA、遺伝子との相違点を整理しながら理解することができる。 生物の体内環境と体液の種類や働きを関連付けて理解することができる。 体の働きを維持するうえで血液がどのような役割を持つのかを理解することができる。 	
	後期第2回定期試験	<ul style="list-style-type: none"> 体液の循環 肝臓の働き 	<ul style="list-style-type: none"> 体内での体液の循環を中学校までの既習事項に関連付けて理解することができる。 体内の恒常性にとって重要な働きをする肝臓の構造を他の臓器との違いに着目し、とらえることができる。 肝臓のさまざまな働きを体内の恒常性と関連付けながら理解できる。 	
	学年末試験	<ul style="list-style-type: none"> 細胞内の水分の移動 体液の濃度の調節 	<ul style="list-style-type: none"> 細胞内における水分の移動について、身近な事象に関連付けながら規則性を理解することができる。 体液濃度の維持の仕方を、単細胞生物、海産無脊椎動物等、異なる生物種ごとに原理を理解することができる。 	

・腎臓の働き

・哺乳類の体液濃度調節の場となる腎臓の基本的な構造、働きについて理解することができる。